

元気なまちかど



▲出来栄を楽しみにフナを漬けて楽しむ参加者

自分で漬けてこだわりの味に

フナズシの漬け方講習会

フナズシの漬け方講習会が7月30日、くすり学習館で開かれ、参加者30名が、一日かけてフナの「飯漬け」を行いました。
この講習会は、甲賀市フナズシ愛好会が初心者を対象に毎年開催しているもので、今年で3回目です。
滋賀県水産試験場から2名が講師として漬け方を伝授。一人につき約20尾の塩切りフナを一尾ずつ水洗いし、干したものを桶の中にご飯と交互に敷き詰めました。
参加者は、米の品種や塩加減、フナの飯の詰め方などそれぞれこだわって漬けていました。
昨年参加された方は「自分で漬けたフナズシは、クセが無く上品な味」と、食べごころになるお正月を心待ちにしていました。

特産品で地域を盛り上げる

みなくち自治振興会かんぴょうづくり

みなくち自治振興会は、水口の特産品であるかんぴょうで地域を盛り上げようと、今年からかんぴょうづくりに取り組んでいます。
同会ふくし委員会が運営する菜園で夕顔を栽培。7月中旬から委員会の方を中心に地域の方によって、朝早くから水口中部「コミュニティセンター」で昔ながらの手むきや天日干しの作業が行われました。
また、7月31日には、地域で活動する健康づくり自主グループ「ふらいばい」の皆さんによって夕顔のわた「中子」を使った健康料理が地域の方約40名に振る舞われました。しょうが煮のほかシロップなどで煮た「中子のコンポート」が作られ、懐かしの味と初めて食べるデザートに舌鼓を打っていました。



▲8月の初旬まで行われた天日干しの作業

みんなで考えるお城を利用したまちづくり

水口青年会議所甲賀湖南ブランディングプロジェクト

水口青年会議所が主催する「甲賀湖南ブランディングプロジェクト」が7月28日、第一部が古城山一帯、第二部が碧水ホールで開催されました。
この催しは、かつて豊臣秀吉が城を築いた古城山を地域資源として見直し、まちづくりに役立てようと甲賀市、湖南市や両市の観光協会と協働して実施したものです。
第一部には、およそ100名の家族連れなどが参加し、古城山をクイズを解きながら巡り、第二部ではシンポジウムが開催され、中嶋市長や有識者がパネリストとして地域資源を活用したまちづくりについて意見を出し合いました。7月1日に発足した「水口岡山城の会理事長の小山剛さんは「じっくりと時間をかけてお城を利用したまちづくりをしていきたい」と意欲を述べました。



▲古城山山頂で難問に挑戦する参加者

生まれ変わった温泉を一足先に満喫

「大河原温泉かもしか荘」鮎河小学校見学会

土山町大河原の旧国民宿舎「かもしか荘」が建て替えられ、「大河原温泉かもしか荘」としてオープン。前日に控えた7月19日、鮎河小学校の児童23名が同施設を訪れ、一足先に温泉を楽しみました。
この見学会は、地元の施設に親しみを持ってもらおうと同小学校のPTAが中心となり、施設の運営者呼びかけで実現したものです。
児童は、一新された外観や真新しい客室などを見て回り、畳の匂いや窓からの眺めに感激していました。
最後にみんなで温泉を満喫し、「また家族と絶対来たい」と話していました。



▲真新しい温泉の湯加減を見る児童

復興された伝統の技を子どもたちが体験

水口細工体験教室

甲賀伝統文化活性化実行委員会が主催する水口細工体験教室が7月23日、あいこつか市民ホールで行われました。
水口細工復興研究会の皆さんが講師を務め、市内の小学生35名が藤つる編みで壁掛け花入れ作りに挑戦しました。
水口細工は、植物の繊維を使った細工物で、江戸時代、水口宿のお土産として有名でした。約50年前に途絶え、同研究会が10年以上かけて当時の製法を復興しました。
子どもたちは、つるが切れないように水にぬらしながら慎重に編み進め、自然の素材で丁寧に作られる細工物の魅力を実感していました。
■企画展「世界が賞賛した水口細工」期間/10月2日(水)まで
場所/水口歴史民俗資料館



▲慎重につるを編む参加者

美しい姿勢を日本舞踊に学ぶ

夏休み舞台体験教室

市では、小学校2年生から中学校3年生を対象に、様々な舞台芸術に触れる機会として「夏休み舞台体験教室」を今年度から開催し、市内で日本舞踊、落語、狂言の教室が開かれます。
7月24日には、あいこつか市民ホールで日本舞踊体験教室が開かれました。
小学生4名が、若柳流の師範立岡裕子さんの指導のもとで、華やかな藤の枝の小物を使った「藤娘」という古典の踊りの稽古を行いました。
すべらせるように足を後ろに引く「おすべり」など日本舞踊の基本的な所作を学び、最も大切な「姿勢を真っ直ぐ保つこと」を意識しながら真剣な表情で取り組んでいました。



▲真剣な表情で日本舞踊の所作を学ぶ児童